

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

10
2013
OCTOBER

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた



第41回 中小企業家同友会全国協議会 青年経営者全国交流会in東京
「武志響創」われわれ青年経営者で世界に誇れる日本の未来を創ろう!

「第18期経営指針をつくる会」が終了
経営指針の実践でよい会社をつくろう

悩みを語りあえる山形同友会をめざそう!
～「増」と「強」の活動で、460名の組織に～

中小企業振興条例元年

魅力を集い、
共に歩もう!

「武志響創」われわれ青年経営者で世界に誇れる日本の未来を創ろう!

平成25年9月12～13日に「第41回中小企業家同友会全国協議会青年経営者全国交流会 in 東京」が開催され、全国より1600名を超える経営者が新宿に集いました。「武志響創」のスローガンで、1日目は分科会と懇親会、2日目は全体会・記念講演・セレモニーが行われ、「われわれ青年経営者で世界に誇れる日本の未来を創ろう!」をビジョンとして学びを深めました。

1日目は16分科会からなり、山形同友会から第3分科会で(株)ティスコ運輸 代表取締役 菅原茂秋氏が報告、座長としてやまがたシティエフエム(株) 代表取締役 青柳等氏が担当しました。

第3分科会は102名の参加があり、「経営指針」のカテゴリで「感謝と学びのチカラでビジョン高め「しあわせ」をつくる」のテーマのもと、菅原社長の生い立ち、起業、同友会との出会い、経営指針の成文化そして実践の内容で進められ、グループ討論でも指針・理念・ビジョンの重要性や、指針を如何にして社員と共有していくのか等の討論が行われました。



懇親会では、森まさこ内閣府特命担当大臣より挨拶を頂き、盛りあがる中で他県の同友会会員との交流を深めました。

2日目の全体会には、甘利明経済再生担当大臣からのご挨拶と、安倍晋三総理大臣からのメッセージが披露されました。

記念講演では(株)マザーハウス 代表取締役兼チーフデザイナー 山口絵理子氏から、「途上国から世界に通用するブランドをつくる～国境を超えたモノづくり・チームづくり～」のテーマで、優しく深い想いが感じられる講演を頂きました。

第3分科会 経営指針

(株)ティスコ運輸 代表取締役 菅原 茂秋



この度の青年経営者全国交流会で、私は初めて報告することになり、山形支部の皆様には大変なご配慮とプレ報告までさせていただきありがとうございました。

おかげさまで、当日は、プロジェクターの接続時の多少のトラブルはあったものの、青柳座長と記録の高橋事務局員に様々なアドバイスをいただきながら、なんとか無事に、自社の取り組みや同友会の経営指針作成セミナーが自身もたらし、経営に対する考え方に基づいた、理念経営の実践事例を報告させていただくことができました。

さすが全国大会だけあって、参加された皆様からの鋭い

質問も、自分自身にとってさらに気づきを得るものになり、やはりみなさんも同じく、社員さんとの関係の構築に課題や興味があるのだと感じました。経営者としてしっかりとビジョンを持ち、現状を正しく認識し、問題や課題を外に求めるのではなく、徹底した対話の中から新たな方向性を考えるきっかけになればと思います。

また、翌日の記念講演はマザーハウスの山口恵理子さんのお話でしたが、学生時代にアルバイトで経験したワシントンの国際機関での、途上国に対する支援活動をフォローする中で、国際援助が実際に末端まで役立つのかという事に対し疑問を覚えて、実際に世界最貧国と言われるバングラディッシュへ訪問し、生々しい現実と直面しながらも、バングラディッシュ特産のジュートを価値あるバッグの生産・販売からブランディングに至るまでのお話でした。

我々が現在行っている生産活動や販売活動を、皆が当たり前のように行っているわけですが、そのことが何のためになるのか？何のお役にたっているのか？を見つめなおす、良いきっかけとなりました。まさに人間尊重の経営の実践者でした！

第4分科会 経営指針

(株)山形ピッグファーム 代表取締役 阿部 秀顕

今回、私個人としても菅原社長の報告の応援という意味もあり、久々の全国大会に参加させていただきました。

私が参加した第4分科会は、奈良同友会 かなえ経営(株)

佐野元洋社長の『同友会と自社経営はつながっている』というテーマの報告でした。

佐野社長は勤めていた会計事務所を独立し、会社を興し



た動機に触れ、「経営者と同じ目線で支える会計事務所でありたい」と語ってくれました。

そんな思いの中で始めた経営も、1人の社員が辞める時の言葉「ビジョンが見えない」で、経営の軸がしっかりできていないことに気づきます。そして経営理念を見直すこととなります。社員との会議では「経営理念はキレイ事をかざるもの」という意見まで出る始末。なかなか本気度が伝わらず、社員と共にいろいろな取り組みをとおして、想いを共有していく過程や苦勞を語られました。

そんな中で社員が自主的に動き始め、会社に血液が通いだし、お客様にいろいろな提案をできるまでになりました。経営者がいなくても維持できる会社づくりを目指しながら、同友会と関わり、学んだことを報告書にまとめ伝え

ているとのことでした。

報告の中には、経営指針を実践していく上での、さまざまな例や手法が紹介されましたが、何よりも経営者の覚悟がしっかりくっきりしているかが重要だと感じました。

グループ討論では『あなたにとって強い会社とは？』のテーマで討論し、「強い会社とは何ぞや」という問いから始まりました。意見はどちらかというと“人”に関するものが多くでて、そこに集中して議論が進みました。経営指針を浸透する、共有するために、全国の経営者の皆様から悩みや解決に向けた示唆などがでて、活発な討論になりました。私自身も、社員との共有に関してはまだまだ過ぎるなど実感し、「本気度が足りないんじゃない、社員は見てるよ」と指摘され、改めて見直してみたいと思いました。

全国大会は、やはり十分すぎるくらいのグループ討論時間と、経営の問題点や新たな気づきをいただける、ありがたい場所だと感じました。これからもできる限り外に出て、学びを続けていかねばならないと思いました。

懇親会では分科会ごとのテーブル設営で、他同友会とも交流してきました。

第5分科会 人を活かす経営の実践

(南)大山ボデー 専務取締役 佐藤 知志

私が参加したのは、「第5分科会 人を活かす経営の実践」です。山形の青全交以来、他県での開催には初めて参加しました。

「社長、辞めるか？」の一言で気付いた、真のビジョン経営「魂(理念)」を受け継ぎ、自社の存在価値を最大限に引き出すという所がポイントでした。

私のグループはすべて後継者の方で、年齢も40歳前後と

自分と同じ境遇の方ばかりでした。会社の規模は違っても、人、物、金の悩みは共通で、腹を割った有意義な意見交換ができました。

グループの中には、これから経営指針を受けようとしている人が2人いて、他メンバーからもアドバイスなどができましたが、その時、山形の指針メンバーのレベルの高さが分かりました。

第7分科会 雇用創出

(南)寝装こてら 代表取締役社長 小寺 祐也

諸先輩方より「全国行事は是非参加すべき！」と言われつつ、なかなか重い腰を上げられずにいましたが、今回は今自分が悩んでいる、社内の問題解決のヒントになる話が聞けそうと、思い切って参加させて頂きました。

まずは1600人規模の集会に圧倒されました。分科会は「私たちのたからものは『人』です」という、“人”をテーマにした第7分科会を選択させて頂き、女性スタッフの働きやすい環境や仕組みについての報告を、自社にダブらせながら解決の糸口を探りました。

グループ討論では、参加されている方々の意識がとても高く、一人ひとりの意見が実を射ており、テーマに対する理解力の深さに驚かされました。

支部例会では役回りの聞き手側になる事が多く、相談する機会に恵まれずにはありましたが、思い切って自社の悩

みを打ち明けたところ、全員が真剣に考えてくれ、適切なアドバイスを頂く事もできました。腹の中を全て話せた爽快感！なんでも話せる同友会とはいえ、全国だからこそ話せる事があるという体験も、とても貴重なものでした。

今回の青全交参加で、あらためて共に学べる人や場がある事の有り難さを感じることができました。私の中での同友会の魅力がさらに増したように思います。



「第18期経営指針をつくる会」が終了

経営指針の実践で よい会社をつくろう



8月24日、第18期経営指針をつくる会発表会が、「愉海亭みやじま」に於いて開かれました。当日は、7名の受講生に仲間として半年間かかわってきた修了生も駆けつけ、総勢31名で行われました。

実現性の高い経営指針に

第18期は、より主体的な経営指針づくりにしようとして「経営指針作成セミナー」から「経営指針をつくる会」に名称を変更して始めました。「労使見解を深く学び、経営姿勢を確立し、全社一体体制の企業をめざす」「現状認識をしっかりと行い、ビジョンを明らかにし、理念から方針・計画まで整合性が取れた経営指針書を作成する」ことを主な重点課題として取り組まれました。

挨拶に立った菅原経営指針委員長は、「経営指針書で方向性を示してからが、スタート。経営指針書を実行することで、会社が確実に進化します。実現性の高い経営指針にしていましよう」と述べました。

思いを込めた経営指針書を発表

同友会の経営指針づくりは、修了生と受講生が同じ今を生きる経営者として、かかわり合いながら学んでいく場です。

2月の開講以来、受講生は修了生より「現状認識がしっかりできているのか」「経営者の責任」「社員にとっての働きがい」「理念から計画まで整合性がとれた具体的な内容

になっているのか」の視点から問いかけを受けながら経営理念の成文化にはじまり方針、戦略、計画と作成してきました。

なかなか方向性が見いだせず苦しい時もありましたが、まっすぐに自分と向き合い、会社と向き合い、社員と話し合いながら完成した経営指針書です。ひとり一人の熱い思いが、発表する表情に表れています。

方向を見出したら努力のみ

修了証を手にした受講生に安藤代表理事は「今期で18期になります。菅原委員長は、中途半端なことをしません。だからいい経営が出来る。経営指針書を作成し、進む方向が見つかったらあとは努力です。良い会社にしたいという強い思いがこれからの発展につながっていきます」と激励。受講生は作成した経営指針書の実践を誓い合いました。

来期の経営指針をつくる会は2014年2月に開講予定です。今期の受講生も更なる学びの場として参加し、経営指針の実現をめざしていきます。

第18期経営指針をつくる会を修了された受講生の感想を紹介します。





私は今年2月に前任より引き継ぎ同友会に入会しました。そして入会とほぼ同時に「経営指針セミナー」の存在を知り、受講に至りました。受講を決めた大きな理由は、業界不況と言われている今をどう乗り越え、これからどの方向を向いて歩めば良いか指標となるものが会社に必要だと思ったからです。

経営指針とは「経営理念」「経営方針」「経営計画」の事を指しますが、恥ずかしながら当社には経営者のための数値的な経営計画しかありませんでした。また、各部門においても目標や戦略はありますが場当たりの対応で長続きしない風潮がありました。つまり経営者と社員が一つの方向に向かって進んでおらず、力が集約していない中で経営を続けていたこととなります。そういった問題点を抱えた

中でセミナーに望みました。

セミナーは6ヶ月の期間で、経営者の責任、労使見解、SWOT分析、財務分析・計画等を学び経営理念の作成、経営指針書の成文化に進んでいきましたが、一つ一つの受講が気づきの場で自分の視野が広がっていくのが体感できました。もちろん初めての取り組みでうまくいかない事も多々ありましたが、指針セミナーの卒業生より多くのかかわりと助言を頂き乗り越えることが出来ました。また同期の受講生の存在も非常に大きく、年齢を超えた深い絆でかかわりあうことができた事にも感謝しています。

このセミナーを卒業して大切と思った事は、「経営に対する責任感」と「会社は社員によって成り立っている」という事。またもう一つは社会貢献。ただ儲ければ良いのではなく「企業経営を通して社会にどう役立つのか」という事の重要さも学びました。

これからの時代は人口減少や市場の成熟化、そしてITのさらなる進化が予想されます。そういった時代を戦うために経営指針書に基づいた理念経営を実践し、社員と共にブレのない会社づくりを目指していきたいと思えます。

答えを求めて自分と向き合う

(有)名月荘 専務取締役 菊池 友伸

私は、今まで家業である旅館を父の背中を見ながら経営に携わって参りました。この先、この旅館を受け継ぎ未来につながる会社にするためには、社長の思い、これまで皆様に評価されてきた価値、たくさんの方々のご協力、そしてご縁を大切にすることが重要であり、これまで支えてくれた社員の皆様にもこれからの名月荘の進む方向を明確にして、働きがいがあり、地域にも必要とされる会社になっていきたいと強く感じ、この経営指針をつくる会を受講しました。

「第18期経営指針をつくる会」を修了した今、漠然としていた自分の思いが文章にまとまった達成感と安堵の気持ちと、これからの課題と責任の重さを感じると同時に目標を達成していこうという気力がふつふつと湧き上がっております。これからがスタートであり、まずは、社員の皆さんと共有し、一つずつ着実に取り組み、自分たちの理想とする旅館へと近づけていこうと思えます。守るべきものは守り、変えるべきものは変え、さらに新しい価値の創造にも積極的に取り組んでいこうと思えます。

この半年間、自分と向き合い貴重な時間を持つ事ができ

ました。回を重ねる度に、助言者の方々から厳しい質問を頂き、その答えを自分と向き合い出し続ける事はとても苦しい作業でした。しかし、その中でたくさんの気づきを得る事ができました。この会でなければ、この厳しい問いかけをして下さる方はいないと思えます。厳しい言葉が今はありがたく温かく感じております。貴重な時間を共にして頂いた助言者の方々や同期の仲間から心から感謝しております。今回自分がして頂いたご恩を助言者として恩返しできればと考えております。そして私自身学び続けていきたいと思えます。



悩みを語りあえる山形同友会をめざそう!

～「増」と「強」の活動で、460名の組織に～

2013年度の山形同友会の活動もいよいよ下半期に入りました。

今年度、山形同友会は460名の組織づくりを目標に「増」と「強」の活動に取り組んでいます。

お知り合いの経営者をご紹介します。

増

- ①人材育成・資金繰り・販路拡大などでお悩みの経営者の方を、ぜひ、ご紹介ください。
→支部役員と事務局で訪問し、例会や社員研修、経営指針づくりなどを紹介します。
- ②支部例会、各種研修、第11回経営研究集会(11/28)に、お誘いください。
(例会ワングスト運動)

強

- ①支部では、経営体験を中心とした例会づくりをし、経営課題を出し合い、解決までの話しあいを行います。ビジネス交流など多様なテーマの例会です。
- ②支部毎に、同友会の活動を魅力に伝える「新DVD」(山形同友会オリジナル)を活用し、「新会員オリエンテーション」を開催します。
- ③役員、事務局で会員さんを訪問します。



50名達成! ～元気なさくらんぼ支部をめざして～

さくらんぼ支部 支部長 及川 忠幸

2年前より目標にしていた念願の50名に到達できた事は、幹事及び事務局はじめ会員の皆様のご協力のお陰と感謝申し上げます。

当初、34名で設立した支部でしたが、徐々に会員数が減り、例会参加も幹事3人という時もありました。仲間を増やす活動も停滞し、2007年には会勢16名となり、支部存続を危ぶむ声もありました。

転機は、山形支部から数名会員が移籍したことです。新しい風が入ったことが原動力となり、楽しい例会企画にこだわり、徐々に入会者が増え、経営指針受講者も生まれました。昨年は、支部から4名が受講。そのことが更なる支部活性と会員同士の絆が深まり、お互いの顔が見え、なんでも相談できるアットホームな支部になってきています。

今後の課題は、幹事における小グループ活動と例会出席率が少ない会員の訪問等のフォローをしながら、さらに仲間を増やし、元気なさくらんぼ支部をめざします。



第5回理事会報告

◆日時:2013年9月11日(水)16:00~18:00 ◆会場:同友会事務局 ◆議長:青柳副代表理事

◆出席:青柳(和)、阿部(秀)、安藤、越前屋、及川、齋藤、佐藤(松)、島貫、長澤、中村、松田、若木、川合相談役、事務局:伊藤、久作、高橋 出席数:17名 オブザーバー:高橋隆全実行委員長、木村東京同友会幹事委員

青柳副代表理事が議長を担当し、安藤代表理事が開会挨拶で、「9/2にスタートした新 e. youに不具合があり、大変申し訳ありません。さて、2020年に東京オリンピックの開催が決定し、これから景気が良くなると思った方も多いでしょう。物価も上がり、消費税増税とこれまでにない変化が目の前に迫ってきています。同友会も来月から下半期、建設的な議論をお願いいたします。

先ほど、中同協から東京青全交に初めて中小企業庁の後援と大臣の出席が決まったと連絡が入りました。これは大きな変化であり、国も同友会をしっかりと見ていると思います」と述べた。

■第17回障害者問題全国交流会 in 神奈川(10/24~15)について

はじめに、中同協障害者委員会の副委員長の木村氏(東京同友会)より、「特別なこと」「心優しい人がやっている」と捉えがちだが、中同協は、今年度より人を生かす経営の柱に、障害者雇用も経営を考えていくうえで大切なものとして、「経営指針」「社員教育」「共同求人」「障害者委員会」の4委員会が活動し、障害者委員会の活動は他の経営者団体にない活動」と紹介した。

続いて、高橋実行委員長より、「第17回障害者問題全国交流会」の参加依頼がありました。13年前、全国総会で赤石前会長の報告で新潟同友会の渡辺トクさんの話を聞き、大変感銘を受け、10年前に障害者雇用をスタート。3年前に障害者の働く会社をつくり、一緒に働き、社風が変わったと報告があった。神奈川の活動を紹介し、「世の中は障害者と共に生きていく時代が変わってきている。全国交流会に参加していただき、人を生かす経営を学び、障害者雇用のきっかけにしたい」と述べた。

■報告事項

- 1) 中同協社員教育委員会報告(8/29~30)(伊藤事務局長)
- 2) 中小企業経営者との意見交換会報告(9/10)(齋藤理事)

県主催で、同友会を代表して参加。内容が直接的に条例に関係がなく、条例への意識の低さを指摘し、同友会としてもっと行政に働きかけをしていこうと述べた。

3) 委員会関連

- ①政策委員会(齋藤理事):山形大学連携授業が8月で終了し最終講座には約50名が参加。来年3月に第1期受講生が卒業する。次年度もさらに実のあるものにしていきたい。
- ②経営指針委員会(中村理事):「第18期経営指針をつくる会」発表会(8/24)があり、7名の受講生が修了。条件付きもあり10/2に再発表をする。
- ③社員共育委員会(阿部理事):新入社員フォローアップ研修(10/28)、幹部社員研修(10/18, 11/15)について説明。幹部社員研修は、講師に岩手同友会の代表理事を迎え、企業変革支援プログラムの「人を生かす経営」を中心に取り組む。

4) 8月月次決算報告(伊藤事務局長)

■承認事項 入会7名 9/11現在407名

■討議事項

議題1:第11回経営研究会について

副実行委員長の島貫理事より、案内チラシ(最終案)、予算(第2次案)、グループ長研修の開催要項、役割分担等の提案があり承認された。

グループ長研修は、11月6日(水)18:00より、山形ビッグウイングにて開催し、講師に中同協より池田泰秋事務局長が決定。

議題2:組織づくりの課題

1)各支部から「9日増強デー」の取り組みを中心とした増強活動の報告があった。

支部	主な活動内容
山形	幹事会で、しばらく例会に参加していない会員の方にはがきを出し、退会を食い止める取り組みをしている。
寒河江	例会案内を5名のゲストに送付。9月例会は、会員企業の社員報告ということで、社員参加を呼びかけている。
さくらんぼ	入会対象者を訪問し、8月末に50名を達成した。退会、支部移動する方もいて、昨日幹事会終了後企業訪問をした。50名以上の支部目標に取り組む。
置賜	対象者リストアップをし、幹事会までリスト者のフォローをしている。3ヶ月連続欠席者への対応をしていく。
庄内	支部幹事に2名以上のリストアップをし、例会案内に一筆を加えて fax をし、ワンゲスト運動を取組んでいる。

2) 目標達成支部の表彰の件

はじめに現在の会員数が407名と期首会勢まであと2名であることを確認した。中村副代表理事より、9月末時点で目標達成した支部を表彰する件が提案され、第11研の懇親会で表彰することが決まった。年間をとおして目標達成した支部は、定時総会で表彰することが決まった。

3) 支部長・委員長・部会長交流会の開催について、活動交流をとおし組織強化につなげることを目的に開催することが提案され、第11研の実行委員会の打ち合わせの前の時間に開催することが決まった。(11/28 11:00~12:00)

議題3:次年度の計画について

松田代表理事より、来月より今年度下半期の活動に入り、新年度の役員人事、方針(案)策定の考え方について提案があり承認された。

議題4:山形同友会HPの全面見直しについて

安藤代表理事より、現在のサーバー料金を含め、全面見直しをすることが提案され承認された。原案を常任理事会で検討することとなった。

議題5:「おもてなし経営推進フォーラム in 山形」に関する後援名義の使用承認申請について

経産省主催の「おもてなし経営推進フォーラム in 山形」(9/27)の後援が承認された。

議題6:きらやか銀行との連携再構築の件

青柳副代表理事が、第2回の意見交換会の報告と金融商品の内容について説明。連携の目的と新商品は本業支援の一つであり、同友会からいくつかの要望を出した。9/19に第3回意見交換会を開催することが報告された。

■その他

- 1) 金融庁の業務説明会及び意見交換会の出席依頼(10/3)に松田代表理事が出席。
- 2) 次回理事会

●日時:10月9日(水)16:00~18:00

●会場:同友会事務局

■閉会挨拶 松田代表理事

9/12日から開催される「東京青全交」の第3分科会(経営指針)を山形同友会で担当し、報告を菅原社長、座長を青柳社長、記録を高橋事務局員が担当します。ぜひ、山形同友会の勢いを示してきてください。

諸問題はありますが、金融機関、行政との関わりも広くなり一歩一歩進んでいる。よりよい山形同友会をめざしていきましょう。

新会員紹介

◎井上 福寿昭氏

心月 代表
業種 飲食業
さくらんぼ支部

◎菅原 秀夫氏

イタリアンハウス ベコリーノ 代表
業種 飲食業
さくらんぼ支部

◎安孫子 昌司氏

株安孫子会計ビジネスサービス
代表取締役
業種 会計業務・
生保損代理店業務・FP業務
山形支部

◎寺島 健介氏

株エフ・シー 代表取締役
業種 サッシリフォーム業
山形支部

◎元木 竜郎氏

株中部 取締役専務
業種 エクステリア工事・資材卸業
山形支部

◎小川 大輔氏

株カーサービス山形
代表取締役
業種 中古車販売・新車販売・車両整備業
山形支部

◎齋藤 隆裕氏

株齋藤商会 専務取締役
業種 農業機械販売・肥料販売業
山形支部

From Editor

★9月で終了した「半澤直樹」「あまちゃん」は、関連グッズや流行語も生まれ、経済番組で特集を組むほど話題になった。善か悪か、正義が勝つかという視点で楽しみ、スカッとした方が多かったようだ。作家曰く「現実的にはありえない。クビになってしまう。言いたいことは半澤直樹に言ってもらいましょう」★「あまちゃん」は、登場する人物がみんないい人で構成されるのもファンタジーの世界。世知がない時代に、個性豊かなキャストたちを楽しませてもらった。私自身は、小泉今日子のセリフにスカッとしたのだが。地元意識と地方で暮らす魅力も共感してもらったのではと期待をしている。★さて、現実に戻ろう。さくらんぼ支部の9月例会は、政策委員長

に「中小企業振興条例の活用で、自社と地域を元気にしよう」のテーマで報告してもらった。グループ討論で、地元企業は地域に支えられていることや地域のお祭りや行事、雇用を支えていると参加者から多くの事例が報告され、地域と企業経営が一体であることを再発見した。★中小企業はどんな環境にあっても経営を維持し発展させる責任があり、地域を盛り立てていく社会的使命がある。例会のまとめで「長期的なビジョンは条例を活用し、日常的な自社のサービス向上には今ある制度や政策を活用しよう」と座長が指摘。地域活性化は行政、金融機関、大学も共通の課題であり、制度等の情報収集に、同友会や行政、金融機関を多に活用していこう。(由)



置賜支部

思いをつなぐネットワークづくり

2013.10.22 (火) 18:30～

場所：伝国の杜

米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

報告者：斉加商店 代表 斉加義三氏

縁あって山形で父が業務用食品の成型加工業として創業。東京出身の斉加さんも一緒に働くことになりました。成型に特化した技術力、応用力で、取引先の要望に応えてきました。しかし、不況、狂牛病と売上が激減、そして父親の死。次々とぶつかる壁にもがきながら、ネットワークの構築による新たな商品づくりに挑戦。そして昨年、同友会で「第17期経営指針作成セミナー」に参加し、経営者としての姿勢を問われながら経営指針書を作成。「自らの働く意識が変わり、判断基準が明確になった。理念に共感する方々と一緒に新たな仕事をつくり、WIN WINの関係をつくっていききたい」と語る斉加さんの報告をもとに、ネットワークづくりを考え合います。



庄内支部

社員と共に自社の現状と未来を考えよう

2013.10.23 (水) 18:30～

場所：酒田勤労者福祉センター

酒田市緑町19-10 ☎0234-26-2644

報告者：サンシステム開発(株) 代表取締役社長 中村友祐氏

社員と共に成長する事を目標に掲げる、庄内支部の10月例会は、自社の経営環境を数値化し現状認識から問題点を探る、「企業変革支援プログラムステップ1」の活用法を学びます。

報告者としては、この企業変革支援プログラムを社員と共に活用・実践しているサンシステム開発(株)の中村社長より、活用のポイントや注意点を報告していただきます。

また、グループ討論では現状認識から見える問題の解決策を、皆で語り合いたいと思います。

是非、社員さんと一緒にご参加下さい。

尚、「企業変革支援プログラムステップ1」をお持ちの方はご持参下さい。

お持ちでない方は当日会場にて購入できます。(1,000円)



寒河江支部

儲かる仕事がしたい!

～企業変革支援プログラムステップ1をやってみて、気づいたこと～

2013.10.23 (水) 19:00～

場所：寒河江市技術交流プラザ

寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者：穂積繊維工業(株) 代表取締役 穂積勇人氏

今まで絨毯製造業は大手ゼネコンの下請建設業への製品提供をしてきた。日本の繊維産業は完全自由化の影響で海外生産になり崩壊。現在、企業数も減り個人向けのインテリア分野が中心になっている。

穂積繊維工業は、麻糸素材の絨毯製造では県内で1社となっている。素材、デザイン、機能性を特徴としながらも、会社としての課題は山積み。6月例会で「企業変革支援プログラムステップ1」に挑戦し、会社の現状は「0」と「1」で埋まった。価格競争に巻き込まれず、独自性を全面に出し、付加価値の高い商品で勝負したい。やりたいこともたくさんある。「どこから手をつけたいかわからない」と語る穂積社長に問題提起をしてもらい、経営者の役割や新しい需要をどうつくっていくかを一緒に考える。



さくらんぼ支部

社長の思いだけでは進まない!

～経営指針の実践から見えてきた課題～

2013.10.24 (木) 18:30～

場所：さくらんぼタントクルセンター

東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者：菓菓子工房COCOイズミヤ 代表取締役 庄司 薫氏

美味しいケーキを創りたいと30年前にパティシエになり、実家の菓子店に入社。結婚・子育てで一時期職場を離れましたが、菓子職人として働きます。ある時、父の「俺の代で終わらた」の一言で、継ぐことを決意。7年前に法人化し社長に就任しました。経営者になり、店の再建と社員の人生を考えるのが経営者の役割と気づき、その思いを成文化します。2011年に経営指針書を作成。2年が経ち、先頭を走っているのが自分だけという現実に突き当たります。経営者として、社員の思いを掴み、一人ひとりの社員が生き生きと目標を持って働く環境づくりの経営課題が見てきました。創業時の「社員は家族」という経営は今も受け継がれています。お菓子作りが大好きという社員とともに「心のごもったお菓子で地域に笑顔を広げたい」と語る庄司社長の実践報告に学びます。

山形支部浅野研究会

企業変革支援プログラム step1の活用による社員との信頼関係の構築

～実践による成果と課題～

2013.10.15 (火) 18:30～

場所：山形テルサ 研修室

山形市双葉町1-2-3 ☎023-646-6677

講師：サンシステム開発(株) 代表取締役社長 中村友祐氏

10月の浅野研究会は、企業変革支援プログラムstep 1の活用と実践についての、講義とグループ討論が中心になります。今回は特に、P14「1. 経営者の責任」について深めていきます。経営者である以上、企業を維持、発展させる責任があります。経営理念のもと、いかに全社一丸でこの困難な時代に向かって行くか、それは我々経営者の責任にかかっていると云っても過言ではありません。その部分をより深く学び合い、自社に活かすべく語り合しましょう!

グループ討論では語り足りないという方のために!終了後の懇親会も予定しています。奮ってご参加下さい!!

*『企業変革支援プログラムstep1』をお持ちの方はご持参ください。



山形支部

山形支部金田研究会

グループ討論を楽しむには!

2013.10.30 (水) 18:30～20:00

場所：遊学館 3階 特別会議室

山形市緑町1-2-36 ☎023-625-6411

同友会の特長は、グループ討論とよく言われます。しかし、「例会の報告を聞くのは、いいけれどもグループ討論は苦手」という声もあります。では、何のためにグループ討論をするのでしょうか?

第2回目となる金田研究会では、グループ討論を会社に取り入れて、会議や研修で活かしている会員さんの事例を交えて、グループ討論をいかに楽しむかを考え合います。

終了後には、会場を移動して懇親会を予定しております。入会しているだけでももったいない!もっと楽しもう!もっと議論しよう!もっと活用しよう!そして、会社に生かしましょう。

山形支部堀研究会

詳細が決まり次第、ご連絡申し上げます。

